

機関番号：32616

研究種目：基盤研究（B）海外学術調査

研究期間：2007～2010

課題番号：19401032

研究課題名（和文） 北メソポタミアにおける粘土板文書の探究
—シリア、テル・タバンの歴史考古学的調査—研究課題名（英文） Study of the Clay Tablets on the Northern Mesopotamia
-Archaeological Research of Tell Taban, Syria-

研究代表者 沼本 宏俊 (HIROTOSHI NUMOTO)

国土館大学・体育学部・教授

研究者番号：40198560

研究成果の概要（和文）：本研究はシリア北東部にあるテル・タバンの遺跡の歴史考古学的調査である。研究期間内には同遺跡の発掘調査を実施し、古バビロニア時代（前18世紀）～新・中期アッシリア時代（前13～8世紀）の公共的建築遺構と多数の楔形文字史料を発見した。これらの発掘した考古資料と新情報が記された文字史料の解読成果により、未解明であった前2千年紀～1千年紀の北メソポタミアの文化編年の構築、支配版図の変遷やアッシリア帝国の地方行政体制の解明に貢献することができた。

研究成果の概要（英文）：This research is the investigation of historical archaeology at Tell Taban, in the north-eastern Syria. We carried out excavations at Tell Taban in this research period. The most remarkable discovery is that public structures and large number of cuneiform texts belonging to the Old Babylonian period (18 B.C.) to the Middle/Neo Assyrian period (13, 12 B.C.) have been excavated. According to the research result of the study of those texts and archaeological data, we contributed to the clarifications of the establishment of the cultural chronology and change of the rule area at the northern Mesopotamia in the 2nd ~1st millennium B.C. as well as a part of local administration system on the Assyrian Empire.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
19年度	2,500,000	750,000	3,250,000
20年度	2,300,000	690,000	2,990,000
21年度	2,900,000	870,000	3,770,000
22年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
年度			
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：考古学（メソポタミア考古学）

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学、アッシリア、粘土板文書、楔形文字

1. 研究開始当初の背景

シリア北東部のイラク国境近くにあるテル・タバンは、アッシリア帝国の西方進出の拠点として繁栄した遺跡である。1997～99年に同遺跡の発掘調査が国土館大学により実施され、宮殿状建物跡の一部とともに中期アッシリア時代（前13～11世紀）の楔形文字史

料（計71点：円筒形碑文、煉瓦等）が出土した。文字史料の記述内容から同遺跡は、アッシリア帝国の属国マリ王国の首都“タベトゥ”であったことが実証され、欧米学会から一躍脚光を浴びる遺跡となった。代表者は2004～06年の科研費（基盤研究（B）海外学術調査）の助成を受け、同遺跡の発掘調査を

継続した。注目すべき成果は、2004年度の調査で王宮の文書保管庫から中期アッシリア時代の楔形文字が刻まれた大量（約300点）の粘土板文書が出土したことである。こうした楔形文字史料の発見は、メソポタミア地方での日本隊による50年に及ぶ発掘史の中で初のことで、同年度の大規模な粘土板文書群の発見は、国内外でセンセーショナルなニュースとして報道された。

同遺跡の調査を継続すれば、アッシリア史を解明する上で第一級の新史料を、確実に内外に提供できると期待された。そこで本研究では、上述のこれまでのタバン調査で蓄積した成果を更に深化すべく、発掘調査を継続し新たな文字史料の発見と建築遺構の全容解明、及び以前の調査で出土した未整理の粘土板文書の解読・研究を行うことを主眼にした。これらの研究成果から地方都市“タベトゥ”つまり、テル・タバンのアッシリアの中央政権と具体的にどのような従属関係あったのかを究明し、アッシリア帝国の形成過程の解明に貢献することが、本研究を着想した大きな理由である。

2. 研究の目的

本研究は、シリア北東部のテル・タバン遺跡の発掘調査と出土する楔形文字史料の解読・研究を主眼とする。

同遺跡は古バビロニア時代（前19-18世紀頃）、中期・新アッシリア時代（前13-11世紀頃・前9-7世紀頃）の北メソポタミア地方の統轄拠点として繁栄した古代都市“タバトゥム/タベトゥ”である。研究代表者は2005年から同遺跡の発掘調査を実施し日本調査隊では初の大規模な粘土版文書群を発見した。これまでの調査成果は同地方の暗黒時代前2千年紀の解明に向けて大きく貢献している。

研究期間内には、これまでの調査で蓄積した成果を更に深化すべく、発掘調査を継続し新たな文字史料の発見と建築遺構の全容解明、及び以前の調査で出土した未整理の粘土板文書の解読・研究を実施する。特に2005~2006年の調査で出土した古バビロニアと中期アッシリアの約300点の未整理の粘土板文書と本研究期間内の調査で出土する文字資料の解読と分析を行い、それらの成果をとおして北メソポタミアの前2~1千年紀の解明に向けて、国内外の研究者が渴望している新情報を提供する。本研究結果から同地域の文化編年を構築テル・タバンが古バビロニアやアッシリアの中央政権と具体的にどのような従属関係あったのかを究明し、帝国の形成過程と興亡史と人類初の帝国主義の実体の解明に貢献する。

3. 研究の方法

シリア北東部ハッサケ市にあるテル・タバンの遺跡（約300x350m、高さ約25m）の発掘調査を各年度8,9月実施した。タバンでは古バビロニア時代から新アッシリア時代（前2~1千年紀）にかけての連続した層序が確認されており、本研究期間は遺跡の北、西、南側地区を発掘し建築遺構、新文字史料の発見につとめた。

文献班の山田、柴田（連携研究者）は、各年度に出土した文字史料（粘土板文書、円筒形碑文、文字入り煉瓦等）と1997-99, 2005年冬季調査で出土した楔形文字史料の解読と分析を現地で行なった。考古資料（遺構・遺物）と出土文字史料を相互補完的に分析し、暗黒時代とされている古バビロニア~新アッシリア時代の文化編年の構築を目指した。

4. 研究成果

(1) 発掘調査：4ヶ年の研究期間は主に新・中期アッシリア時代、古バビロニア時代の層位の発掘に焦点を置いた。

新アッシリア時代：2007年度には同時代の公共的巨大日乾煉瓦造建物跡を発掘し、定礎ブロンズ像、タバン初の同時代の楔形文字史料等を見出し、タバンが新アッシリア時代もシリア北東部の統轄拠点であったことを実証する大きな証拠を提示することができた。

2009,10年度も同建物跡の調査を実施した多大な成果を得た。特に、新アッシリアから中期アッシリアにかけての連続する層序を検出し、これまでは未確立であった同時代の土器編年の構築が可能になった。

中期アッシリア時代：2008年度の北側地区の調査では中期アッシリア時代の連続した層序が認められ、タバンの歴代王が構築した建造物の特定やアッシリア時代の標準となる土器編年を確立するうえで有効な資料を得ることができた。西側地区では日乾煉瓦造の王宮跡の発掘を2005年以来継続し行っている。最大の発見は、2008年度に医術・呪術粘土板文書が出土したことである。この文書が出土した地点の近くに、宗教・文学文書を集めた文書庫（図書館）が存在する可能性が非常に強く、将来こうした文書庫が発見されれば、タバン調査では最大の成果になる。2009年度も王宮跡と一連の建物跡の発掘を行い、新たな部屋の一部を検出した。注目すべきは粘土板文書群がこの部屋の床面から出土したことである。取り上げた粘土板文書群の中には、少なくとも100点以上の文書が詰まっていると思われる。今後の調査で解体し清掃を予定だが、解読を開始すればこれまでの出土文書に

はない学会待望の新情報の提供が大いに期待される。王宮跡の発掘はタバンの調査の中核をなしており、本年度以降も継続する。2010年度は北側地区の王宮と考えられる巨大日乾煉瓦造建物跡の壁内から、王名入り煉瓦が積まれた状態で発見された。これまでの調査では文字入り煉瓦の使用目的が判然としなかったが、建物の定礎記念として使用されたことがほぼ確実になった。こうした文字入り煉瓦の使用法は異例で、中期アッシリアの地方拠点タバンの独自性を示していることが明らかになった。

古バビロニア時代：2010年度の南側地区の調査では、他遺跡では類例のない前期ミタンニ時代から古バビロニア時代（前16～19世紀）にかけての連続した層序を確認した。これらの層序からは、タベトゥの公共的建物と考えられる大規模な日乾煉瓦造壁跡や岩盤掘削施設跡を検出した。同層序は古バビロニア時代と中期アッシリア時代間の空白を埋める生活層で、北西メソポタミアの拠点都市タバトゥムからタベトゥへの変遷過程の究明や同時代の土器編年を確立するうえで極めて重要な成果である。

(2)出土楔形文字史料と解読研究：2007年度の調査で発見した楔形文字史料は計52点で、中期アッシリア時代の円筒碑文、煉瓦碑文の解読から、タバンの歴代王の王統と足跡の全容解明に向けての様々の新事実を得た。文字史料には、これまで出土した資料の欠落を補う多くの新情報が認められた。2008年度の調査では46点の中期アッシリア時代の楔形文字史料を採集した。連携研究者の山田、柴田は7月にドイツで開催された国際アッシリア学会で、タバンの調査で出土した文字史料の成果報告を行い欧米研究者達から注目を浴びた。2009年度の調査では、計49点の楔形文字史料を採集した。タバンの出土の文字史料は欧米学会から高く評価されており、山田、柴田はフランス人研究者と当年度から同史料の共同研究を開始した。テル・タバンの文字史料の解読成果は、未だ不明瞭な北メソポタミアの前二千年紀の実体を解明するうえで、学会待望の第一級の新資料とされ国際的に注目されている。2010年度の調査では計14点の文字史料を発掘した。同年度の調査で発掘、文書解読以外で特筆すべき成果は、2005年冬に出土した未整理の中期アッシリア粘土板文書群の保存修復作業を行ったことである。保存修復は2名の日本人保存修復専門家により行われ、約200点の粘土板文書の保存処理を完遂した。邦

人の手による粘土板文書の保存修復は、これが最初で将来の日本の保存修復技術の発展に向けての貢献が期待される。

各年度の調査で楔形文字史料を必ず発掘し、現地で解読作業を行い、その成果と最新情報をいち早く内外に公表している。本邦初のメソポタミア地方の楔形文字使用期の歴史時代における考古学と文献学の共同研究が定着し、着実に成果をあげ研究目標到達に向け邁進している。本研究期間の成果は、北メソポタミアの未だ不明瞭な前18～9世紀の歴史文化の解明に向けて、テル・タバンは確実に同地域の歴史考古学的研究を行う際の数少ない標準遺跡として欧米学会から認識された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

沼本宏俊 2011「アッシリア帝国の拠点遺跡—シリア・テル・タバンの遺跡の第10次発掘調査(2010年)」『考古学が語る古代オリエント』、第18回西アジア発掘調査報告会報告集：87-93。

柴田大輔 2010 “Continuity of local tradition in the Middle Habur region in the 2nd millennium B.C.: The local calendar of Tābetu in the Middle Assyrian period” *Studia Chaburensia* vol.1, 217-239. (査読有)

沼本宏俊 2010「アッシリア帝国の拠点遺跡—シリア・テル・タバンの遺跡の第9次発掘調査(2009年)」『考古学が語る古代オリエント』、第17回西アジア発掘調査報告会報告集：89-94。

Yamada S. 2010 “Administration and Society in the City of Tabatum as seen in the Old Babylonian Texts from Tell Taban” *al-Rafidan*, Special issue, 247-252.

Shibata D. 2009 “An Old Babylonian Manuscript of the Weidner God-List from Tell Taban/Tabatum in the Middle Habur Region” *Iraq*, 71, 33-34. (査読有)

柴田大輔 2009「タバンの市とマリの地の王—2005年テル・タバンの出土中期アッシリア文書—」*オリエント* 51-1：69-85 (査読有)

Shibata D. and Yamada S. 2009 “Texts from the 2007 Excavations at Tell Taban: A Preliminary Report” *Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavations and the study of cuneiform Texts*, 87-109.

沼本宏俊 2008「アッシリア帝国の拠点遺

跡ーシリア、テル・タバンの遺跡の第7次発掘調査(2007)ー」『考古学が語る古代オリエント』、第15回西アジア発掘調査報告会報告集：79-85。

Numoto H. 2008 “Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria (6), Preliminary Report of the 2006 Season of Work”, *al-Rafidan*, Vol.XXVIII, 1-46.

Yamada S. 2008 “A Preliminary Report on the Old Babylonian Texts from the Excavation of Tell Taban in the 2005 and 2006 Seasons: The Middle Euphrates and Habur Areas in Post-Hammurabi Period”, *al-Rafidan*, Vol.XXVIII, 47-62.

Numoto H. 2007 “Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria (5), Preliminary Report of the 2005 Summer Season of Work”, *al-Rafidan*, Vol.XXVIII, 1-63.

[学会発表] (計 20 件)

山田重郎 “Geographical Circumstances of Tabatum from Post-Hammurabi Period to the Middle Hana Period” Fourth SAKURA-Meeting: “The Region of Euphrates and Habur seen from Tabatum and Mari. 2011年3月23日。Hugot Fondation, Paris (フランス)。

柴田大輔 “The toponym “Land of Māri” along the Habur through ages” Table-ronde du projet franco-japonais «Sakura». 2011年3月23日。Collège de France, Paris (フランス)。

沼本宏俊 「シリア、テル・タバンの発掘調査」テル・タバンの出土粘土板文書の保存修復成果。2011年2月15日。東京文化財研究所。

山田重郎 「テル・タバンの出土養子縁組文書」第52回オリエント学会。2010年11月7日。国土館大学梅ヶ丘校舎

柴田大輔 “The chronology and genealogy of the local Middle Assyrian dynasty of □ābetu” 56e Rencontre Assyriologique Internationale. 2010年7月27日。Universitat de Barcelona (スペイン)。

沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡ーシリア・テル・タバンの遺跡の第9次発掘調査(2009年)」日本西アジア考古学会主催第17回西アジア発掘調査報告会。2010年3月28日。於サンシャイン文化会館。

柴田大輔 Middle Assyrian dedicatory brick inscription to Adad-Ma ani: New evidence for the royal line and religion of Tabetu,

2nd SAKURA meeting, 2010年3月17日。Fondation Hugot, Paris
沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡、シリア・テル・タバンの発掘調査」岡山市立オリエント美術館特別講演会。2010年2月20日。岡山市立オリエント美術館。

沼本宏俊 「北メソポタミアにおけるアッシリア文明の総合的研究の成果概要」特定領域研究「セム系部族社会の形成」第6回シンポジウム。2010年2月4,5日。池袋あうるすぽっと。

山田重郎 “Amorite Societies along the Lower Habur according to the Tell Taban Tablets” Formation of Tribal Communities, 2009年11月23日。池袋サンシャインシティ文化会館。

沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡ーシリア・テル・タバンの遺跡の第8次発掘調査(2008年)」日本西アジア考古学会主催第16回西アジア発掘調査報告会。2009年3月14日。於サンシャイン文化会館。

沼本宏俊 「くさび形文字文書の発掘ーシリア・テル・タバンの遺跡の発掘調査」栃木県オリエント協会第35回栃木県オリエントセミナー。2008年6月7日。於栃木県立博物館。山田重郎 「2007年シリア、テル・タバンの遺跡出土楔形文字文書」日本西アジア考古学会主催第15回西アジア発掘調査報告会。2008年3月15日。於池袋サンシャイン文化会館。

沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡ーシリア、テル・タバンの遺跡の第7次発掘調査(2007)ー」日本西アジア考古学会主催第15回西アジア発掘調査報告会。2008年3月15日。於池袋サンシャイン文化会館。

沼本宏俊・山田重郎 「テル・タバンの出土文書史料からみた部族」特定領域研究「セム系部族社会の形成」第4回シンポジウム。2008年2月16日。於池袋ワールドインポートマート。

沼本宏俊 「粘土板文書の発掘ーシリア、テル・タバンの調査ー」、日本オリエント学会第281回定例講演会。2007年5月26日。於東京天理教館。

[図書] (計 5 件)

山田重郎 2010 「前2千年紀におけるアムル人、アラム人とアッシリア」『紀元前3千年紀の西アジアーユーフラテス川中流域に部族社会の原点を探る』六一書房刊、129-138。

Numoto H. (ed.) 2009 Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavations

and the study of cuneiform Texts, 1-109.
柴田大輔 2009 「前二千年紀後半アッシリア統治下における地方拠点都市：景観、行政、祭祀」『農耕と都市の発生－西アジア考古学最前線』同成社刊、213-226。

山田重郎 2009 「タバトゥム市とその周辺－ポスト・ハンムラビ時代のハブル川下流域とユーフラテス川中流域における政治的・社会的・文化的諸相」『セム系部族社会の形成研究集会報告集－シリア・メソポタミア世界の文化接触：民俗・文化・言語－』86-95。

Numoto H. (ed.)2008 Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the2005 and 2006 seasons of excavations and the study of the Old Babylonian and middle Assyrian Texts, 1-180.

6. 研究組織

(1)研究代表者

沼本 宏俊 (NUMOTO HIROTOSHI)
国土舘大学・体育学部・教授
研究者番号：40198560

(2)研究分担者

山田 重郎 (YAMADA SHIGE)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授
研究者番号：30323223
(H20 H22 連携研究者)

新井 勇治 (ARAI YUUJI)
愛知産業大学・造形学部・准教授
研究者番号：20410855
(H20 H22 連携研究者)

西山 伸一 (NISHIYAMA SHINICHI)
サイバー大学・世界遺産学部・准教授
研究者番号：50392551
(H20 H22 連携研究者)

(3)連携研究者

柴田 大輔 (SHIBATA DAISUKE)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・助教
研究者番号：40553293